

## American Association for Thoracic Surgery (AATS) 2023 学会参加印象記

大阪大学医学系研究科心臓血管外科

川村 匡

Masashi KAWAMURA



American Association for Thoracic Surgery (AATS) の 103rd annual meeting が2023年5月6日から9日まで米国のロサンゼルスで開催されました(図1)。AATSは世界で最も権威ある心臓胸部外科学会であり、世界中から多くの外科医が参加します。日本ではちょうど新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行する時期でしたが、米国では「もう過去の出来事」のような雰囲気です、学会参加も現地での生活もほぼマスクなし、そのほかの制限もなしでした。

日本からも多くの先生が参加しており、メジャーリーグで大活躍中の大谷翔平選手の試合がちょうどロサンゼルス近郊の本拠地アナハイムで開催されており、こちらにも多くの先生が参加されていました。

AATS2023は、Yolonda L. Colson 先生がAATS 史上初の女性 president として務められました。Diversity 発祥の地ともいえる米国ですが、女性 president の登場に100年以上かかったという論調でした。

さて、会期中は多くのレクチャーや最新の研究結果を聴講することができ、大変有意義でした。重症心不全関連は、最近米国でも広まりつつある donation after circulatory death からの心移植の成績、2018年に刷新された UNOS (United Network for Organs Sharing) の臓器(心臓)配分システム (heart allocation system) に関する研究の結果、新しい臓器搬送器具の開発など、大変興味深いものでした。

また、今年 Elliot Carr Cutler 先生が僧帽弁狭窄症に対する mitral commissurotomy (僧帽弁交連切開術) を施行して100年目ということで特集されていました。人工心肺技術がない時代に心臓弁膜症への外科的介入を可能にしたの



図1 AATS 2023, Los Angeles Convention Centerにて



図2 The cardiovalvulotome of Dr Elliot Carr Cutler

は、実験を重ねて開発された専用の器具(図2)<sup>1)</sup>でした。近年、多くのデバイスが開発され医療の日進月歩に貢献しておりますが、その根底を支える先人の創意工夫は脈々と受け継がれていると実感でき、大変感慨深いものでした。

最後に個人的なことになりますが、私が米国留学を終えて帰国したのは2020年の新型コロナウイルスパンデミックの真っ只中でした。日本への直行便も少なく(実際に韓国経由で帰国)、帰国後は2週間の隔離義務などがあり大変

### ■ 著者連絡先

大阪大学医学系研究科心臓血管外科

(〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2)

Email. kawamura.masashi.wxa@osaka-u.ac.jp

でした。実は、今回が帰国後初めての海外学会参加であり、少し構えておりましたが、問題なく帰国できました。ロシアのウクライナ侵攻による影響、円安の遷延などがあり、パンデミック前の状態に戻ったとは言い難いですが、願わくは今後とも海外学会へ参加し、見聞を広めたいと思います。

本稿の著者には規定されたCOIはない。

## 文 献

- 1) Cohn LH: The first successful surgical treatment of mitral stenosis: the 70th anniversary of Elliot Cutler's mitral commissurotomy. *Ann Thorac Surg* **56**: 1187-90, 1993